

都市再生整備計画 事後評価シート
乙川 リバーフロントQURUWA 戦略 地区(第2期)
(都市構造再編集集中支援事業)

令和8年3月

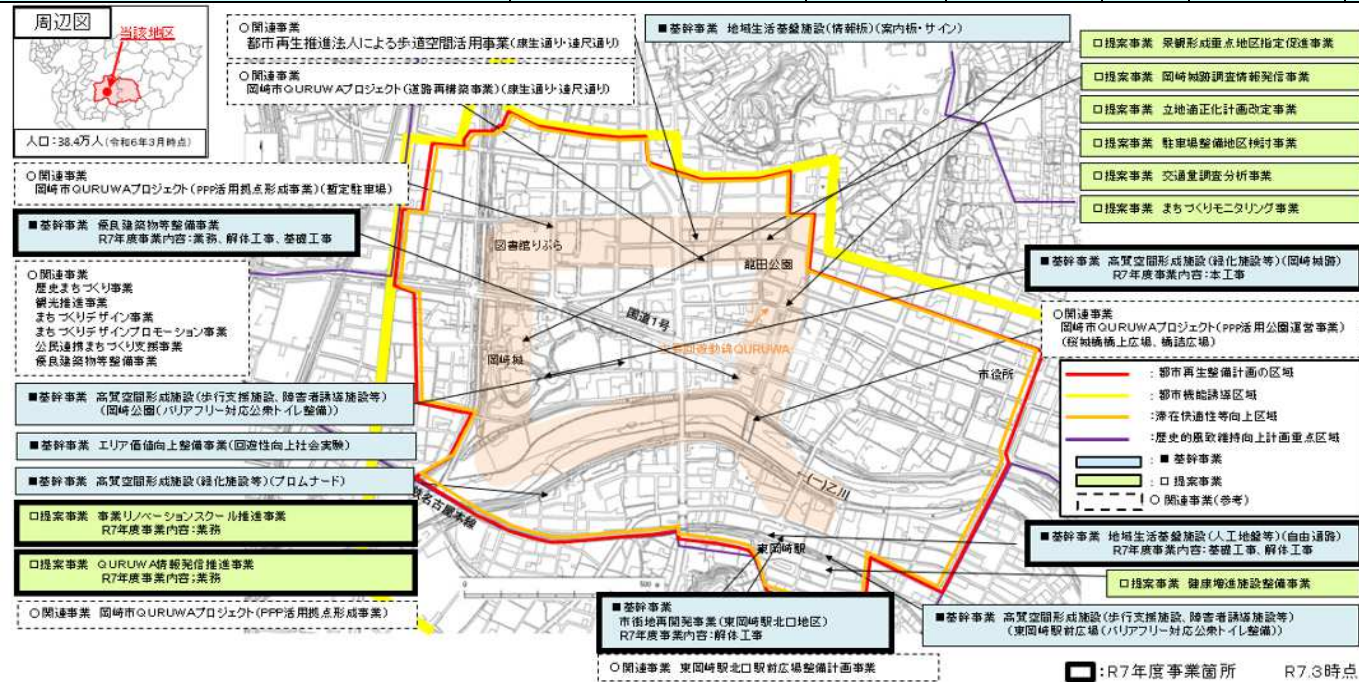
愛知県岡崎市

4) 定性的な効果 発現状況	まちの活性化に向けた公共空間再整備とその活用により、主体的な市民や民間事業者との連携体制を構築した。その過程で当該エリアの自治会の連合体が形成されたことで地域のコミュニティづくりを加速させたことも評価され、グッドデザイン金賞を受賞した。これらのことから、ハード事業とソフト事業の効果が発現していると考えられる。			
5) 実施過程の評価	モニタリング	実施内容 令和5年度にモニタリング(中間評価)を実施	実施状況 都市再生整備計画に記載し、実施できた ●	今後の対応方針等 モニタリング結果を活かし、同計画第3期を作成する。
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	
	官民連携による 取組	官民連携によるまちづくりの実施	都市再生整備計画に記載し、実施できた ●	継続して積極的に官民連携による取組を推進する。
持続的なまちづくり 体制の構築	都市再生推進法人や拠点事業者、地域住民によるまちづくり体制の構築	都市再生整備計画に記載し、実施できた ●	都市再生推進法人や拠点事業者、地域住民との連携を推進する。	

様式2-2 地区の概要

乙川リバーフロントQURUWA戦略地区(第2期)(愛知県岡崎市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値				
大目標「これからの100年を暮らすまち、夢ある新しい岡崎」- 新しい住み方・働き方・遊び方を楽しむまちに向けた、まちと人のための公共空間再構築と公民連携による利活用の促進 - 目標①:リバーフロント地区の地域資源を活かした、快適で歩いて楽しい回遊動線の実現(QURUWA戦略の促進)【まちの回遊性】 目標②:交通結節点機能を活かした公共空間再構築・一体的整備による「来訪者に対するおもてなしの玄関口」・「暮らしやすいまち」の形成・強化【駅を活かしたまちづくりの強化】 目標③:公民連携による市民・来訪者の新たな交流・体験等を通じた「良質な都市空間を楽しむ日常(機会)」や「中心市街地の賑わいの創造【賑わいと交流・暮らしの創造】 目標④:岡崎の歴史・文化資源を活かした「これからの100年を暮らすまち」の拠点強化【歴史文化資源の拠点性の強化】	本地区の魅力発揮に関する市民等満足度	単位: %	41.3%	R2	51% → 71%	R7	90.8%	R7
	地区中央部の橋梁(歩道、人道橋)を往来する人数	単位: 人/日(12h)	5,065人	R2	6,000人 → 7,600人	R7	8,329人	R7
	岡崎公園を訪れる観光客数	単位: 人/年	19.6万人	R1	20万人	R7	19.9万人	R7
	東岡崎駅の降客数	単位: 人/日	19,715人/日	R1	20,400人/日	R7	17,458人/年	R6
	QURUWA上の路線価	単位: 千円/㎡	110.0千円/㎡	R2	110.3千円/㎡ → 113.4千円/㎡	R7	122.3千円/㎡	R7
	QURUWA上の公共空間を活用した民間事業活動日数	単位: 日/年	204日/年	R1	300日/年 → 365日/年	R7	585日/年	R7
	計画区域内居住率	単位: %	2.38%	R2	2.40% → 2.50%	R7	2.49%	R7



まちの課題の変化

- 課題1:1期計画で整備した公共空間の民間事業者等による利活用の促進及び周辺民有地への民間投資の誘導→公共空間の民間事業者日数は多くなっており利活用の促進が図られている。また民間事業者等の投資機運が高まってきている。
- 課題2:公共空間及び周辺民有地における居心地の良いウォーカブルな空間づくりによる回遊性の向上→龍田公園やプロムナードなどの整備と活用が図られウォーカブルな空間づくりと回遊性の向上が図られている。
- 課題3:スマートシティ事業との連携による更なる民間投資の誘導→毎年データの蓄積が進み、民間投資誘導につながるデータ活用の模索とその方策の実践
- 課題4:都市拠点である東岡崎駅周辺地区における土地利用の促進→令和3年11月に岡崎市と名古屋鉄道で協定を結び、市街地再開発事業が始まった。
- 課題5:都市機能の誘導による生活機能サービス等の充実及び周辺区域の居住誘導→民間開発の動きが出てきており、居住率が高まっていることから一定の居住誘導は効果が現れている。
- 課題6:歴史文化遺産等の既存ストックの更なる活用→岡崎城跡調査情報発信事業等が順調に進んでおり既存ストックの活用が図られている。
- 課題7:公民連携による更なる高質な都市空間の形成と景観形成→ハード事業の整備や歴史文化資源活用など高質な都市空間や景観形成、魅力的な拠点形成が図られている。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- 各施設を適切に維持管理しながら、指定管理制度などの民間活力も用いて日常的な利活用の促進を図り、良質な都市空間を楽しむ中心市街地としての賑わいを創り出すとともにQURUWA地区に関する情報発信を行う。
- 歴史や文化資源を活かしたまちの形成をさらに推進し、その魅力を情報発信する。
- QURUWA地区のまちづくりが進展してきた中で、まちの玄関口である東岡崎駅の交通結節点機能を活かして回遊が促されるよう東岡崎駅やその周辺の公共空間再構築や一体的整備を進める。
- 民間投資誘導につながるデータ活用と実践等により、民間事業者への働きかけや事業推進の支援を行い、空き店舗を含めたまちの活性化を進める。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 官民連携による取組みの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値	●		指標1:51 指標2:6,000人 指標5:110.3千円/㎡ 指標6:300日/年 指標7:2.40%	指標1:71% 指標2:7,600人 指標5:113.4千円/㎡ 指標6:365日/年 指標7:2.50%	モニタリング(中間評価)で既に達成した目標を上方修正した。
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	市道(PPP活用拠点形成事業関連)	176.0	L=140m	0.0	-	事業の見直しにより削除 (第3回変更)	影響なし		
公園	乙川河川緑地	100.0	L=80m、W=7m	0.0	-	事業の見直しにより削除 (第3回変更)	影響なし		
地域生活基盤 施設	案内板、サイン	51.0	1式	54.0	1式		影響なし		●
地域生活基盤 施設	総構え位置表示板等	2.0	1式	0.0	-	事業の見直しにより削除 (第3回変更)	影響なし		
地域生活基盤 施設	自由通路			426.7	L=51m、W=15m	事業の追加(第3回変更)	影響なし		●
高質空間形成 施設	ブルムナード	96.0	2,103㎡	94.0	2,103㎡		影響なし	●	
高質空間形成 施設	人流分析カメラ等	48.0	1式	0.0	-	事業の見直しにより削除 (第3回変更)	影響なし		
高質空間形成 施設	岡崎城跡			39.2	1式	事業の追加(第3回変更)	影響なし		●
高質空間形成 施設	東岡崎駅前広場 (バリアフリー対応公衆トイレ)	17.0	1式	24.0	1式		影響なし	●	
高質空間形成 施設	岡崎公園 (バリアフリー対応公衆トイレ)			26.4	1式	事業の追加(第1回変更)	影響なし	●	
街なみ環境整 備事業	景観形成重点地区指定促進事業	24.0	1式	0.0	-	提案事業の事業活用調査(景観形 成重点地区指定促進事業)に変更 (第1回変更)	影響なし		
市街地再開 発事業	東岡崎駅北口地区			492.7	5,900㎡	事業の追加(第1回変更)	影響なし		●
優良建築物等 整備事業	康生通南二丁目地区			126.0	1棟	事業の追加(第3回変更)	影響なし		●
エリア価値向 上整備事業	回遊性向上社会実験			11.4	1式	事業の追加(第2回変更)	影響なし	●	

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	健康増進施設	10.0	1式	10.0	1式		影響なし	●	
	まちづくりモニタリング事業	34.0	1式	0.0	-	提案事業の事業活用調査(まちづくりモニタリング事業)に変更 (第1回変更)	影響なし	/	/
事業活用調査	まちづくりモニタリング事業			17.2	1式	地域創造支援事業から変更 (第1回変更)	影響なし	●	
	景観形成重点地区指定促進事業			16.6	1式	街なみ環境整備事業から変更 (第1回変更)	影響なし	●	
	立地適正化計画改定事業			24.6	1式	事業の追加(第1回変更)	影響なし	●	
	駐車場整備地区検討事業			9.0	1式	事業の追加(第2回変更)	影響なし	●	
	交通量調査分析業務			10.0	1式	事業の追加(第1回変更)	影響なし	●	
まちづくり 活動推進事業	岡崎城跡調査情報発信事業	54.0	1式	58.6	1式		影響なし		●
	事業リノベーションスクール推進事業			8.8	1式	事業の追加(第4回変更)	影響なし		●
	QURUWA情報発信推進事業			5.8	1式	事業の追加(第4回変更)	影響なし		●

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業

事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
岡崎市QURUWAプロジェクト (PPP活用拠点形成事業)		太陽の城跡地 A=7,700㎡			令和1年度～令和5年度	令和1年度～令和15年度	状況により実施時期を判断	
岡崎市QURUWAプロジェクト (PPP活用拠点形成事業)(暫定駐車場)		りぶら東第2駐車場 A=11,000㎡			令和4年度～令和7年度	令和4年度～令和7年度	状況により継続の可否を判断	
岡崎市QURUWAプロジェクト (道路再構築事業)		康生通り			令和3年度～令和7年度	令和3年度～令和7年度	状況により継続の可否を判断	
岡崎市QURUWAプロジェクト (道路再構築事業)		連尺通り			令和3年度～令和7年度	令和3年度～令和7年度	状況により継続の可否を判断	
岡崎市QURUWAプロジェクト (PPP活用公園運営事業)		桜城橋橋上広場、橋詰広場			令和1年度～令和5年度	令和1年度～令和15年度	次期計画において推進する	
歴史まちづくり事業					平成29年度～令和7年度	平成29年度～令和7年度	継続して実施する	
観光推進事業					平成29年度～令和5年度	平成29年度～令和7年度	継続して実施する	
まちづくりデザイン事業					令和3年度～令和4年度	令和3年度～令和7年度	継続して実施する	
まちづくりデザインプロモーション事業					令和3年度～令和4年度	令和3年度～令和7年度	継続して実施する	
公民連携まちづくり支援事業					令和3年度～令和6年度	令和3年度～令和7年度	継続して実施する	
東岡崎駅北口駅前広場整備計画事業					平成22年度～令和9年度	平成22年度～令和11年度	次期計画において推進する	
優良建築物等整備事業					令和4年度～令和8年度	令和5年度～令和11年度	状況により実施時期を判断	
都市再生推進法人による歩道空間活用事業(康生通り)		康生通り			令和3年度～令和7年度	令和3年度～令和7年度	継続して実施する	
都市再生推進法人による歩道空間活用事業(連尺通り)等		連尺通り・市民会館通り・二七市通り(八幡通り)等			令和3年度～令和7年度	令和3年度～令和7年度	状況により継続の可否を判断	

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
			基準年度	基準年度	基準年度	基準年度	目標年度	目標年度	モニタリング	事後評価	達成率	達成度	あり	なし	
指標1	%	市民、観光客アンケート(対面方式)による満足度を評価する(「だいたい満足」or「たいへん満足」と回答した人の割合)。	59.2%	H25	41.3%	R2	51% → 71%	R7	モニタリング	83.3%	R5	モニタリング	○	/	/
									事後評価	確定見込み ●	90.8%	事後評価	○		
指標2	人/日(12h)	地区中央部の橋梁(歩道、人道橋)を往来する人数	3,720人	H26	5,065人	R2	6,000人 → 7,600人	R7	モニタリング	9041人	R5	モニタリング	○	/	/
									事後評価	確定見込み ●	8,329人	事後評価	○		
指標3	人/年	岡崎公園を訪れる観光客数	20.7万人	H25	19.6万人	R1	20万人	R7	モニタリング	9.7万人	R4	モニタリング	×	●	/
									事後評価	確定見込み ●	19.9万人	事後評価	×		
指標4	人/日	東岡崎駅の降客数	18,712人/日	H26	19,715人/日	R1	20,400人/日	R7	モニタリング	16,848人/日	R4	モニタリング	×	/	●
									事後評価	確定見込み ●	17,458人/日	事後評価	×		
指標5	千円/m ²	QURUWA上の主要な公共空間における平均路線価を計測する。	107.8千円/m ²	H26	110.0千円/m ²	R2	110.3千円/m ² → 113.4千円/m ²	R7	モニタリング	112.5千円/m ²	R5	モニタリング	○	/	/
									事後評価	確定見込み ●	122.3千円/m ²	事後評価	○		
指標6	日/年	QURUWA上の公共空間を利活用した民間事業活動日数	1日/年	H26	204日/年	R1	300日/年 → 365日/年	R7	モニタリング	557日/年	R4	モニタリング	○	/	/
									事後評価	確定見込み ●	585日/年	事後評価	○		
指標7	%	計画区域内居住率	2.33%	H25	2.38%	R2	2.40% → 2.50%	R7	モニタリング	2.44%	R5	モニタリング	○	●	/
									事後評価	確定見込み ●	2.49%	事後評価	△		

指 標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	基幹事業や提案事業等が、十分に効果発現したと考えられるため。	
指標2	基幹事業や提案事業等が、十分に効果発現したと考えられるため。	
指標3	目標値にわずかに届かなかったため。	コロナ禍やNHK大河ドラマ「どうする家康」の放映等の外的要因により、岡崎城の入場者数が大きく乱高下している。
指標4	コロナ禍の影響に伴い降客数が激減し、復調傾向はあるが目標値を大きく下回っているため。	新型コロナウイルスの影響によるライフスタイルの変化により全国的に電車の利用自体が減っている。
指標5	基幹事業や提案事業等が、十分に効果発現したと考えられるため。	
指標6	基幹事業や提案事業等が、十分に効果発現したと考えられるため。	
指標7	中間モニタリングの際に、当初目標を上方修正したため僅かに目標に達しなかったが、毎年増加が見られるため、一定の効果発現が見られていると考えられるため。	QURUWA地区内の居住率の推移を計測しているが、区域線の外周部でマンション建設などの動きが始めており、計測区域の見直し等の検討余地がある。

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○:評価値が目標値を上回った場合

△:評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×:評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)	本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
			基準 年度		基準 年度				
その他の 数値指標1							モニタリング		
							事後評価		
その他の 数値指標2							モニタリング		
							事後評価		
その他の 数値指標3							モニタリング		
							事後評価		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

まちの活性化に向けた公共空間再整備とその活用により、主体的な市民や民間事業者との連携体制を構築した。その過程で当該エリアの自治会の連合体が形成されたことで地域のコミュニティづくりを加速させたことも評価され、グッドデザイン金賞を受賞した。これらのことから、ハード事業とソフト事業の効果が発現していると考えられる。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
モニタリング(中間評価)の実施	予定どおり実施した	令和5年度にモニタリング(中間評価)を実施	中間評価により交付期間中に実施した事業の効果を確認することができた。また既に達成した数値目標を上方修正した。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 官民連携による取組の実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
QURUWAフォーラム・シンポジウム	予定どおり実施した	【実施時期】平成27年～ 【実施回数】計19回(令和7年度末現在) 【実施結果】フォーラムやシンポジウムを通し、まちづくりの普及啓発に努めた。	今後もフォーラムやシンポジウムを開催し、普及啓発に努めながら、そこで出た市民の意見を取り入れ、公民連携によるまちづくりを推進する。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
KCBR	予定どおり実施した	【実施時期】令和1年～ 【実施頻度】月1回 令和5年度からは隔月開催 【実施結果】地域主催の、まちづくりに興味がある人たちが参加し易いプラットフォームが機能することにより、関わる人たちのすそ野が広がり、多世代で多種多様な参画が可能となった。	今後も地域住民を中心とする会議を続けられるよう支援を続け、地域課題の解決を図っていく。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
QURUWAまちづくりデザイン会議	予定どおり実施した	乙川リバーフロント地区のまちづくりについて、クオリティをコントロールし、民間主体の公民連携事業に対応できる庁内の部署横断体制を構築する。	【実施頻度】年3～4回 専門家や拠点事業者、都市再生推進法人を交えた乙川リバーフロント地区の整備全般に関する意見交換の場を設ける。	引き続き、様々な立場、観点から意見交換ができる会議を開催し、民間主体の公民連携事業を推進しながら持続可能なまちづくりに取り組む。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
乙川リバーフロント地区かわまちづくり協議会	予定どおり実施した	市、民間事業者、市民が河川管理者と連携して事業を推進するため、かわまちづくり支援制度に登録を行い、協議会を発足し河川管理者から河川の占有許可を受ける。	【実施回数】計32回(令和7年度末現在) 河川空間の利活用に関しての方針決定を行う、官民を交えた協議会を開催する。	今後も民間のかわまちづくり実行委員会と連携し、民間主体のかわまちづくりを支援することで、多様な魅力あふれるプログラムを実施し、来街者の増加やまちへの回遊の実現につなげる。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
乙川リバーフロント地区QURUWA戦略地区(第2期) 庁内打合せ	都市計画課 拠点整備課 社会教育課 まちづくり推進課	令和7年11月25日(火)	都市政策部まちづくり推進課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1	指標2	指標5	指標6
指標名		本地区の魅力発揮に関する市民等満足度	地区中央部の橋梁(歩道、人道橋)を往来する人数	QURUWA上の路線価	QURUWA上の公共空間を利活用した民間事業活動日数
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度 総合所見	指標改善への貢献度 総合所見	指標改善への貢献度 総合所見	指標改善への貢献度 総合所見
基幹事業	地域生活基盤施設・案内板、サイン	△	◎	-	○
	地域生活基盤施設・自由通路	○	-	○	-
	地域生活基盤施設・プロムナード	○	○	△	△
	高質空間形成施設・岡崎城跡	○	○	△	-
	高質空間形成施設・東岡崎駅前広場(バリアフリー対応公衆トイレ)	○	-	△	△
	高質空間形成施設・岡崎公園(バリアフリー対応公衆トイレ)	○	-	△	△
	市街地再開発事業・東岡崎駅北口地区	○	△	○	△
	優良建築物等整備事業・康生通南二丁目地区 エリア価値向上整備事業・回遊性向上社会実験	○	◎	◎	△
提案事業	地域創造支援事業・健康増進施設整備	△	-	-	△
	事業活用調査・まちづくりモニタリング事業	-	-	-	-
	事業活用調査・景観形成重点地区指定促進事業	○	-	○	○
	事業活用調査・立地適正化計画改定事業	○	-	○	-
	事業活用調査・駐車場整備地区検討事業	○	-	○	△
	事業活用調査・交通量調査分析業務	○	-	-	-
	まちづくり活動推進事業・岡崎城跡調査情報発信事業	○	○	-	○
	まちづくり活動推進事業・事業リノベーションスクール推進事業	◎	△	○	△
	まちづくり活動推進事業・QURUWA情報発信推進事業	◎	○	-	○

関連事業	岡崎市QURUWAプロジェクト(PPP活用拠点形成事業) 太陽の城跡地	○		○		◎		◎	
	岡崎市QURUWAプロジェクト(PPP活用拠点形成事業) (暫定駐車場)りぶら東第2駐車場	◎		○		○		◎	
	岡崎市QURUWAプロジェクト(道路再構築事業) 康生通り	○		-		-		◎	
	岡崎市QURUWAプロジェクト(道路再構築事業) 連尺通り	○		-		-		◎	
	岡崎市QURUWAプロジェクト(PPP活用公園運営事業) 桜城橋橋上広場、橋詰広場	◎		◎		○		◎	
	歴史まちづくり事業	○		△		△		○	
	観光推進事業	◎		◎		△		○	
	まちづくりデザイン事業	◎		○		-		-	
	まちづくりデザインプロモーション事業	◎		○		-		○	
	公民連携まちづくり支援事業	○		○		○		○	
	東岡崎駅北口駅前広場整備計画事業	○		-		-		-	
	優良建築物等整備事業	○		○		◎		-	
	都市再生推進法人による歩道空間活用事業(康生通り) 康生通り	○		○		○		◎	
	都市再生推進法人による歩道空間活用事業(連尺通り)等 連尺通り・市民会館通り・二七市通り(八幡通り)	○		○		○		◎	

※指標改善への貢献度

- ◎ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △ : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	引き続き満足度の高い区域となるよう、各種事業を推進する。	引き続き歩いて楽しいウォークアブルな空間づくりを推進する。	引き続き高い事業効果が得られるよう、各種事業を推進する。	活動日数を増やすだけでなく質の向上も目指す。

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標3			指標4			指標7				
指標名		岡崎公園を訪れる観光客数			東岡崎駅の降客数			計画区域内居住率				
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類		
基幹事業	地域生活基盤施設・案内板、サイン	△	R7の推計値として、199,400となり目標値となる。200,000に惜しくも到達しなかった。また単なる数字的な実体だけでなく、2期計画の期間はコロナ禍やNHK大河ドラマ「どうする家康」の放送等があり、岡崎城の入場者数の数値が大きく乱高下しており、純然たる整備計画の効果発現を評価することが難しく、継続的な推移を計測していきたい。	Ⅲ	-	コロナ禍により基準年であるR1年度からR2年度には75%程度と利用量が落ち込み、以後は少しずつ回復傾向にあるが、R6年度時点では、88.6%程度(17,458人/日)の数値に留まり、目標値である20,400に到達できていない。これは東岡崎駅だけでなく、全国的な鉄道のトレンドを見ても数%程度の差はある。同傾向の推移が見られ、新型コロナウイルスの影響によるライフスタイルの変化の影響が響いている。	Ⅲ	-	R7年度実績値としては2.49であり、当初計画で設定した2.40%は大きく上回ったが、R5年度中間モニタリングで上方修正した。2.5%には惜しくも到達しなかった。岡崎市の人口としては、R2より減少傾向に転じたが、QRUWA地区内の人口は増えており効果発現が起きているものと考えられる。区域線の外周部でマンション建設などの動きが出始めており、計測区域の見直し等の検討余地がある。	Ⅱ		
	地域生活基盤施設・自由通路	-										
	地域生活基盤施設・プロムナード	△										
	高質空間形成施設・岡崎城跡	△										
	高質空間形成施設・東岡崎駅前広場(バリアフリー対応公衆トイレ)	-										
	高質空間形成施設・岡崎公園(バリアフリー対応公衆トイレ)	△										
	市街地再開発事業・東岡崎駅北口地区	-										
優良建築物等整備事業・康生通南二丁目地区	-											
エリア価値向上整備事業・回遊性向上社会実験	△											
提案事業	地域創造支援事業・健康増進施設整備	-										
	事業活用調査・まちづくりモニタリング事業	-										
	事業活用調査・景観形成重点地区指定促進事業	-										
	事業活用調査・立地適正化計画改定事業	-										
	事業活用調査・駐車場整備地区検討事業	-										
	事業活用調査・交通量調査分析業務	-										
	まちづくり活動推進事業・岡崎城跡調査情報発信事業	△										
まちづくり活動推進事業・事業リノベーションスクール推進事業	-											
まちづくり活動推進事業・QRUWA情報発信推進事業	△											
関連事業	岡崎市QRUWAプロジェクト(PPP活用拠点形成事業)太陽の城跡地	-										
	岡崎市QRUWAプロジェクト(PPP活用拠点形成事業)(暫定駐車場)りぶら東第2駐車場	△										
	岡崎市QRUWAプロジェクト(道路再構築事業)康生通り	-										
	岡崎市QRUWAプロジェクト(道路再構築事業)連尺通り	-										
	岡崎市QRUWAプロジェクト(PPP活用公園運営事業)桜城橋橋上広場、橋詰広場	-										
	歴史まちづくり事業	△										
	観光推進事業	△										
	まちづくりデザイン事業	△										
	まちづくりデザインプロモーション事業	△										
	公民連携まちづくり支援事業	△										
	東岡崎駅北口駅前広場整備計画事業	-										
	優良建築物等整備事業	-										
	都市再生推進法人による歩道空間活用事業(康生通り)康生通り	-										
	都市再生推進法人による歩道空間活用事業(連尺通り)等連尺通り・市民会館通り・二七市通り(八幡通り)	-										

※目標未達成への影響度

××：事業が効果を発揮せず、

指標の目標未達成の直接的な原因となった。

×：事業が効果を発揮せず、

指標の目標未達成の間接的な原因となった。

△：数値目標が達成できなかった中でも、

ある程度の効果をあげたと思われる。

－：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。

分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。

分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。

分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	次期計画においても、歴史まちづくりと連動したまちづくりを継続的に取り組みながら、効果発現に向けたフォローアップを図る。	次期計画においても、駅を活かしたまちづくりを強化するため、駅周辺整備を推進するなど継続的に取り組みながら、効果発現に向けたフォローアップを図る。	次期計画においても、民間開発の誘導支援などに取り組みながら効果発現に向けたフォローアップを図る。	
------------------	---	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
乙川リバーフロント地区QURUWA戦略地区(第2期) 庁内打合せ	都市計画課 拠点整備課 社会教育課 まちづくり推進課	令和7年11月25日(火)	都市政策部まちづくり推進課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
1期計画で整備した公共空間の民間事業者等による利活用の促進及び周辺民有地への民間投資の誘導	公共空間の民間事業者日数は多くなっており利活用の促進が図られている。また民間事業者等の投資機運が高まり、市街地再開発事業や優良建築物等整備事業などが動き始めた。	継続的な公共空間の利活用促進と、さらなる民間投資誘導が必要。	2030年完成に向けて東岡崎駅整備が本格化し、駅周辺のエリアについても効果を波及すべく、相乗効果の高いと思われる関連整備や周辺民有地におけるまちづくり支援の推進が求められる。 公共空間の利活用が進んできている中で、周辺地域のさらなる活性化を促進するため、民間投資を誘導することが必要
公共空間及び周辺民有地における居心地の良いウォーカブルな空間づくりによる回遊性の向上	周辺民有地にて公共空間を意識した設えの広がりや籠田公園や中央緑道と民有地を一体的に活用する姿が現れ始めた。公共空間の活用の手引きの作成や周辺の景観ルール検討などが進んでいる。	一部の民間事業者が取り組んでくれているウォーカブルな空間づくりを波及させ、面的に魅力的なエリアとしていき、更なる回遊性の向上を図る。未実施のままのQURUWAプロジェクトの推進。	
スマートシティ事業との連携による更なる民間投資の誘導	計測データの蓄積が進み、岡崎スマートコミュニティ推進協議会による民間事業者の事業支援に向けた実証事業などが進められている。	実証事業などを社会実装へとフェーズを移しながら民間投資誘導へと活用していく。	
都市拠点である東岡崎駅周辺地区における土地利用の促進	令和3年11月に岡崎市と名古屋鉄道で協定を結び、市街地再開発事業及び自由通路整備事業が動き始めた。	2030年竣工に向け、各種事業計画及び設計、工事を適切に進行する必要がある。	
都市機能の誘導による生活機能サービス等の充実及び周辺区域の居住誘導	毎年継続的な新規出店が見られるなど生活機能の充実が進んでいる。民間再開発の動きが出てきており、居住率が高まっていることから一定の居住誘導は効果が発現している。	コンパクトシティの推進、安定した地域経済圏を確立するためにも更なる都市機能や居住誘導を図る必要がある。	
歴史文化遺産等の既存ストックの更なる活用	岡崎城跡調査情報発信事業等が順調に進んでおり既存ストックの活用が図られている。	岡崎市歴史的風致維持向上計画2期計画の策定される見込みであり、引き続き歴史まちづくり事業と連携を図る。	
公民連携による更なる高質な都市空間の形成と景観形成	ハード事業の整備や歴史文化資源活用など高質な都市空間や景観形成、魅力的な拠点形成が図られている。	民間投資の機運が高まる中、民間事業者と連携しながら更なる高質な都市空間の形成を図る。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
効果を持続させるため に行う方策	公共空間の利活用の促進	各施設を適切に維持管理しながら、指定管理制度などの民間活力も用いて日常的な利活用の促進を図り、良質な都市空間を楽しむ中心市街地としての賑わいを創り出すとともにQURUWA地区に関する情報発信を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域生活基盤施設(案内サイン) ・高質空間形成施設(桜城橋) ・高質空間形成施設(橋詰広場) ・事業活用調査(QURUWAプロジェクト検討事業) ・まちづくり活動推進事業(岡崎城跡調査発信事業) ・まちづくり活動推進事業(景観形成重点地区指定促進事業) ・まちづくり活動推進事業(情報発信推進事業) (関連事業: QURUWAプロジェクト、QURUWA戦略推進事業、観光推進事業、歴史まちづくり事業、都市再生推進法人による歩道空間活用事業)
	歴史文化遺産等の既存ストックの更なる活用	歴史や文化資源を活かしたまちの形成をさらに推進し、その魅力を情報発信する。	<ul style="list-style-type: none"> ・高質空間形成施設(六所神社参道) ・まちづくり活動推進事業(岡崎城跡調査情報発信事業) ・まちづくり活動推進事業(岡崎城跡調査発信事業) ・まちづくり活動推進事業(情報発信推進事業) (関連事業: QURUWAプロジェクト、QURUWA戦略推進事業、観光推進事業、歴史まちづくり推進事業)

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	東岡崎駅整備の更なる推進と周辺地区における土地利用の促進と回遊性の向上	QURUWA地区のまちづくりが進展してきた中で、まちの玄関口である東岡崎駅の交通結節点機能を活かして回遊が促されるよう東岡崎駅やその周辺の公共空間再構築や一体的整備を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・道路(都市計画道路岡崎西尾線) ・地域生活基盤施設(東岡崎駅前広場) ・地域生活基盤施設(明大寺交通広場) ・地域生活基盤施設(自由通路) ・地域生活基盤施設(立体横断施設) ・高質空間形成施設(多目的広場) ・高質空間形成施設(南口広場) ・高質空間形成施設(六所神社参道) ・市街地再開発事業(東岡崎駅北口地区) ・まちづくり活動推進事業(駅周辺まちづくり支援事業) (関連事業: QURUWAプロジェクト、QURUWA戦略推進事業、東岡崎駅北口駅前広場整備計画事業、民間再開発事業(市街地再開発、優良建築物等整備事業等))
	民間投資誘導の促進	民間投資誘導につながるデータ活用と実践等により、民間事業者への働きかけや事業推進の支援を行い、空き店舗を含めたまちの活性化を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・市街地再開発事業(東岡崎駅北口地区) ・優良建築物等整備事業(康生通南二丁目地区) ・まちづくり活動推進事業(駅周辺まちづくり支援事業) ・まちづくり活動推進事業(事業リノベーションスクール推進事業) (関連事業: QURUWAプロジェクト、QURUWA戦略推進事業、観光推進事業、民間再開発事業(市街地再開発、優良建築物等整備事業等))

フォローアップ又は次期計画等において実施する改善策を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

● 交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
● 事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
● 数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
● 数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
● 残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画					
			年度	年度	年度	年度	確定	見込み			予定時期	計測方法	その他特記事項			
指標1	本地区の魅力発揮に関する市民等満足度	%	41.3	R2	51	71	R7	確定 ●	90.8	○	あり	→	-	-	-	
								見込み								なし
指標2	地区中央部の橋梁(歩道、人道橋)を往来する人数	人/日(12h)	5,065	R2	6,000	7,600	R7	確定 ●	8,329	○	あり	→	-	-	-	
								見込み								なし
指標3	岡崎公園を訪れる観光客数	人/年	19.6万	R1	20万人	R7	確定 ●	19.9万	×	あり ●	→	3期計画モニタリング(令和11年3月)	3期計画中間モニタリング時に、愛知県観光レクリエーション利用者統計を用いて、モニタリング値を計測し、当該数値を本計画の確定値と読み替えるものとする。	-	-	
							見込み ●									なし
指標4	東岡崎駅の降客数	人/日	19,715	R1	20,400	R6	確定 ●	17,458	×	あり ●	→	3期計画モニタリング(令和11年3月)	3期計画中間モニタリング時に、岡崎市統計を用いて、モニタリング値を計測し、当該数値を本計画の確定値と読み替えるものとする。	-	-	
							見込み ●									なし
指標5	QURUWA上の路線価	千円/m ²	110	R2	110.3	113.4	R7	確定 ●	122	○	あり	→	-	-	-	
								見込み								なし
指標6	QURUWA上の公共空間を活用した民間事業活動日数	日/年	204	R1	300	365	R7	確定 ●	585	○	あり	→	-	-	-	
								見込み ●								なし
指標7	計画区域内居住率	%	2.38	R2	2.40	2.50	R7	確定 ●	2.49	△	あり ●	→	3期計画モニタリング(令和11年3月)	3期計画中間モニタリング時に、岡崎市統計を用いて、モニタリング値を計測し、当該数値を本計画の確定値と読み替えるものとする。	-	-
								見込み								
その他の数値指標1				H				確定				→				
				H				見込み				→				
その他の数値指標2				H				確定				→				
				H				見込み				→				
その他の数値指標3				H				確定				→				
				H				見込み				→				

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	中間モニタリングを実施したことにより、交付期間途中時点の効果を発現することができ、事業完了時点の評価値を推計することができた。	事後評価だけでなく中間モニタリングを実施することで、それまでの事業進捗や事業効果などを確認することができたので、次期計画においても中間モニタリングを行うことが望ましい。
	うまく いかなかった点	コロナ禍などの予測できない社会情勢の変化があり、成果の達成が難しかった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		目標と事業効果の整合性についても、今回の計画で得た知見などを踏まえ、計画の質を高めていく。
	うまく いかなかった点	指標5の路線価などは、再整備・活用が行われている公園や河川の周辺での上昇が見られるものと想定していたが、実際には駅周辺の路線価が上がるなど予測できない動きを見せた。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	地域住民や民間事業者と様々な場で意見交換を行いその内容を反映することで、地域の実態に即した満足度の高い事業を実施できた。ウェブサイトの構築やインスタなどのSNSの発信などにより、まちづくりを発信しながらまちづくりの機運や認知度を高めることができた。	今後も、施設計画やまちづくりに、市民意見を取り入れ、市民に親しまれるまちになるよう努める。
	うまく いかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	中間モニタリングや、状況に応じて適宜計画変更を行いながら事業を進めることができた。	計画期間中に適宜PDCAを回し、計画実効性の向上に努める。
	うまく いかなかった点		
その他	うまくいった点		-
	うまく いかなかった点		

添付様式6ー参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

乙川リバーフロントQURUWA戦略地区(第3期)

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	本市HPに掲載	令和7年12月10日～12月30日	令和7年12月10日～24日	電話、メール、窓口等	都市政策部 まちづくり推進課
広報掲載・回覧 ・個別配布					
説明会・ワークショップ					
その他	報道機関発表	令和7年12月10日	令和7年12月10日～24日		

住民の意見	
-------	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	井料美帆(名古屋大学准教授)、 鈴木温(名城大学教授)、 中井健太郎(名古屋大学准教授)、 三浦哲司(名古屋市立大学准教授)	令和7年12月	都市政策部 まちづくり推進課	岡崎市附属機関設置条例	岡崎市
その他の委員					

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	たくさんの指標で多角的に検証されていると評価された。
	成果の評価	未達成の指標について、外的要因による致し方ない事情や目標値にわずかに届いていない状況等を鑑みれば、事業は適切に進められていると評価して良いだろうとの意見があった。
	実施過程の評価	事業の実施や維持管理等において、地域や民間の理解は不可欠であるため、継続して公民連携に取り組んでいただきたいと意見があった。
	効果発現要因の整理	評価原案のとおりで問題ないと意見があった。
	事後評価原案の公表の妥当性	事後評価原案について地域住民から意見がないことが残念であり、様々な場面で市民から意見をもらう方が良いとの意見があった。 →今回の事後評価についてはガイドラインに沿って公表手続きを行っていること。各種シンポジウムや会合の実施、また各事業の実施にあたり地域住民との意見交換をしながら行っていることを説明し、委員の理解を得た。
	その他	特になし。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	道路空間活用など、人の目に触れるミクロな取り組みも大切であると思うので継続して取り組みを続けていただけたらと思うと意見があった。
	フォローアップ	コロナや大河ドラマ等の外的要因による未達成の指標について、引き続き傾向を観測して適切にフォローアップを行えば問題ないと意見があった。
	その他	特になし。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他	特になし。	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。